

『原三溪翁伝』の輪読 & 「漢詩を学ぶ」

7月の定例研究会では、『原三溪翁伝』の輪読と、特別研究会「原三溪の漢詩を学ぶ」を開催しました。

◆輪読

発表者：宮崎朋子

範囲：pp.594～609

第3篇 性格と趣味

第2章 趣味

第1節 古美術品愛翫と蒐集



横浜市開港記念会館 外観

～発表概要～

原三溪の趣味の第一は、日本有数ともいえる古美術品蒐集であった。親交のあった美術史家の矢代幸雄は、芸術パトロンとして日本最大の人物とまで言う。さまざまな貴重な美術品を購入したが、今日とりあげたのは、大正2年に原三溪のもとに入り、昭和14年に亡くなる直前に皇室に献上した後鳥羽上皇関連の作品である。国宝水無瀬神宮にある後鳥羽上皇像より描かれたと思われる藤原信実作（？）絹本著色の後鳥羽上皇像、後鳥羽上皇の宸翰の書状、子の賀茂氏久筆の書状、僧西蓮の書状7点は、いずれも歴史的な意味でも重要で、現在は京都の東山御文庫の勅封となっている。

宮崎朋子

◆原三溪の漢詩を学ぶ

発表者：廣島亨

ゲスト：鄧捷（関東学院大学 比較文化学科 准教授）

三溪の私的側面、即ち日常の姿や心情を伺い知る機会は多くない。三溪作の漢詩は自身の心中を直接表現した数少ない貴重な遺品だが、作品の解釈や背景の研究結果を耳にしたことがない。私達が漢詩を学ぶ起点はここにある。今回「偶感」“自憐霜鬢老塵機 四十九年昨夢非 今日猶余江上物 斜風細雨一蓑衣”を取り上げ、訳と解釈を試みた。詩の時代背景や生活環境等の背景も斟酌し、訳と解釈を提示、意見交換した。席上鄧教授からコメント（語句自体の意味やニュアンスの説明、漢詩解釈のアプローチ方）を頂いた。納得できる作品理解まで辿り着けたのでは、と感じている。また鄧教授より中国語で朗読頂き、平仄の声調を実感できた。あわせ詩吟を吟じて、日本語と中国語との詩の調べの違いを実験してみた。引き続き漢詩の更なる研究に取り組むことを確認した。

廣島 亨



鄧先生に中国語で漢詩を読んでいただきました。